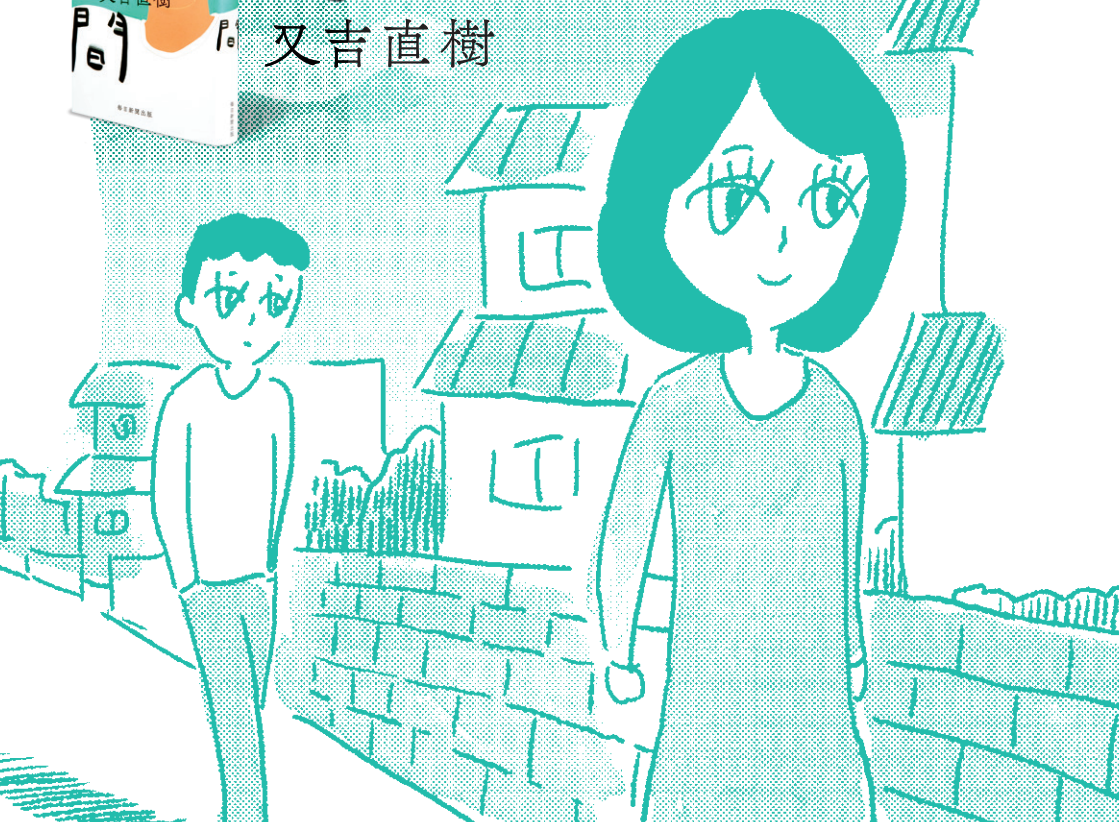


長編小説『人間』が  
**3分でわかる!**

小説の一部を漫画化!



人間  
又吉直樹



**TAKE FREE**

毎日新聞出版  
100年 未来を楽しむための出版社

## < あらすじ >

永山は、38歳の誕生日、古い知人からメールを受け取る。若かりし頃「ハウス」と呼ばれる共同住居でともに暮らした仲野が、ある騒動の渦中にいるという。永山の脳裡に、芸術家志望の男女と創作や議論に明け暮れた日々が甦る――。

## < 登場人物 >



永山

主人公。絵や文章の仕事で食べている。38歳の誕生日に届いたメールをきっかけに、若い頃に「ハウス」と呼ばれる共同住宅で暮らした日々を回想する。



仲野

「ハウス」の元住人。現在はイラストレーター／コラムニストとして活動している。



奥

「ハウス」の元住人。永山にとって、ハウス時代の数少ない理解者。

※あらすじ漫画には登場しません



めぐみ

「ハウス」の元住人。絵本作家を目指していた。永山とたびたびデートに出かけたことがある。



カスミ

永山の家にやってくる女性。永山を「大王様」と呼ぶ。曲を作っているらしい。

※あらすじ漫画には登場しません



影島

芸人で芥川賞作家。お笑いコンビ「ポーズ」の片割れ。

※あらすじ漫画には登場しません



父

永山の父。家族と離れて沖縄で一人で暮らす。

※あらすじ漫画には登場しません



母

永山の母。大阪で暮らしている。

※あらすじ漫画には登場しません

めぐみは  
なんで絵本を  
描こうと思ったん？

私への  
取材ですか？

え？  
聞き方変やった？

なんか私  
永山くんみたいに  
なんかしたいっていうの  
ないかしれん

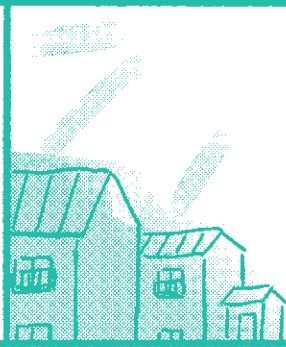
# 人間

自分も  
めぐみと似たようなものだった

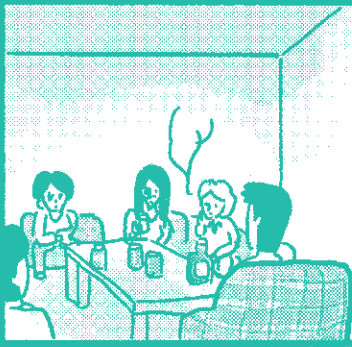
絶対的なものから  
天啓を受けて  
漫画家を目指している  
わけではなかった

漫画：大橋裕之

僕が「ハウス」と呼ばれる  
共同住宅に住むことに決めた  
のは結局は刺激が欲しかった  
のだと思う



ここでは  
毎晩のように住人たちによる  
青い議論が交わされていた



安易に人が死ぬ作品  
は嫌いだ

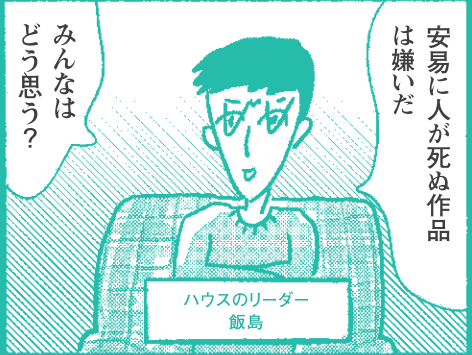
みんなは  
どう思う？

人殺しとけばいいんでしょ  
みたいなのは嫌ですねー

飯島さんの  
言う通りです

僕と同一歳の  
いけすかない仲野

ハウスのリーダー  
飯島



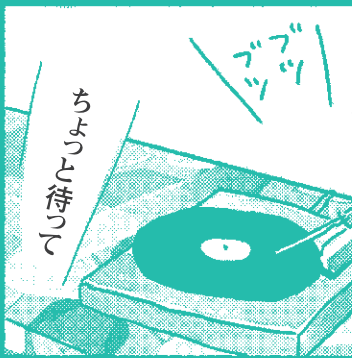
こういう  
発言を審査されるような  
空気は苦手だ：

その時

レコードの盤に傷がついて  
いたのか「ブツブツ」という  
ノイズが流れた

ちよつと待って

ブツ  
ブツ



その音を  
みんなで聴いていた

なんか…いい

飯島さん！  
いいっすよねー！

ブツ  
ブツ



人々！  
人々！

なんや  
こいつら…

こんなぼんやりと躁状態の  
ハウスの中だったが  
僕はめぐみの存在によって  
いつも足場を得たような  
気になれていた

永山さん  
私と同じ歳  
なんですね

めぐみには  
ハウスの他の住人のような  
芸術を志していることを  
むやみに誇る自意識が  
ほとんど感じられなかった  
からだ

つけてみーそ  
かけてみそー

そんなある日  
飯島さんがハウスの住人で  
作品展をやるうと  
言い出した

いいつすねー！

僕は「凡人Aの罪状は  
自分の才能を信じていること」  
というタイトルで  
連作の絵を展示した

ハウス内での

僕の作品の評価は  
あまりよくなかったが

ハウスの中で  
永山くんが唯一  
芸術家って感じだに

恥ずかしいから  
やめて

作品展を見に来た  
出版社の編集者から  
僕の作品を書籍化したい  
と言われた

やります！  
新作描きます！

しかし一向に  
アイデアが浮かばず



めぐみにもあたつてしまい  
何度もケンカした

何から  
逃げてるの!?

うるせえ!

そんなある日  
新作は突然完成した

完成おめでとう

た…たしかに  
俺がいつも考えていた  
ものだ…

すごい…  
できた!!

うんうん

そこで  
主人公は  
家を出て!

どうやら昨夜  
僕が酔っ払いながら語った物語を  
めぐみが慌ててメモをして  
くれていたらしかった

『凡人A』は無事刊行され  
にわかに話題となった

周囲からすれば  
僕は充実しているように  
見えたかもしれない

なぜかこの頃

めぐみをたまに  
遠くに感じるがあった



永山くん  
なんかさあ  
仲野が言いふらしてる  
みたいなんだけど

え?  
何を?

『凡人A』は  
飯島が考えたつて



仲野てめえ殺すぞ!!  
あることないこと  
言いやがって!

なんだよいきなり  
ヤンキーかお前は

あることないこと?

『凡人A』は  
飯島さんが考えたんだよ  
めぐみに聞いてみろよ  
ダセえなお前は

ごめんなさい…

とにかく  
落ち着いて  
話して  
何があつたん?

ごめんなさい!  
ごめんなさい!

せつかく作品が  
本になるって  
喜んどったのに

永山くんは  
あきらめて  
ほしくなくて…

永山くんあの夜  
寝ちゃつとったから  
そしたらリビングに  
飯島さんがおつて…

つづきは本編で

『人間』

ちよい読み

生まれた瞬間を最後に、

自分は心の底から叫んだことが  
ないのかもしれない。

「おまえは絶対になにも成し遂げられない」  
いまだに僕の身体に浸透している仲野の予言。

「踏むことのなかった  
犬のクソみたいな人生(笑)」

自分の感覚だけが正しいと疑わなかった日々さえも疑いたくなるほど、  
自分は今にもわかっていなかったのではないかと不安になる。

「この罪の意識ってなんだろうね」

「悪魔はおまえだよ」

「神様はなんで才能に見合った夢しか持てへんように  
設定してくれんかったんやろ」



青春のあとも  
人生は続く。  
いまだなお  
惑いつづける  
かつての  
若者達の物語

人間  
又吉直樹

定価:本体1400円(税別)  
978-4-620-10843-8



代表作誕生!!

毎日新聞出版

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館5階  
TEL03-6265-6941 <http://mainichibooks.com/>